

歯科医師国家試験の現況

第2条 歯科医師になろうとする者は、歯科医師国家試験に合格し、厚生労働大臣の免許を受けなければならない。

第9条 歯科医師国家試験は、臨床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について、これを行う。

第10条 歯科医師国家試験及び歯科医師国家試験予備試験は、毎年少くとも一回、厚生労働大臣が、これを行う。

2 厚生労働大臣は、歯科医師国家試験又は歯科医師国家試験予備試験の科目又は実施若しくは合格者の決定の方法を定めようとするときは、あらかじめ、医道審議会の意見を聴かなければならない。

第11条 歯科医師国家試験は、次の各号の一に該当する者でなければ、これを受けることができない。

- 一 学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基づく大学(第十六条の二第一項において単に「大学」という。)において、歯学の正規の課程を修めて卒業した者
- 二 歯科医師国家試験予備試験に合格した者で、合格した後一年以上の診療及び口腔衛生に関する実地修練を経たもの
- 三 外国の歯科医学校を卒業し、又は外国で歯科医師免許を得た者で、厚生労働大臣が前二号に掲げる者と同等以上の学力及び技能を有し、かつ、適当と認定したもの

歯科医師国家試験の大まかな1年の流れ

4月頃、医道審議会歯科医師分科会で方針決定



7月頃、試験日、試験地、試験委員などの公表



翌年2月上旬頃、歯科医師国家試験実施



3月上旬頃、医道審議会歯科医師分科会で合格者の決定



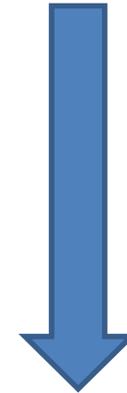
3月中旬頃、合格発表

(参考) 第113回歯科医師国家試験

令和元年7月1日 官報で試験日等を公表



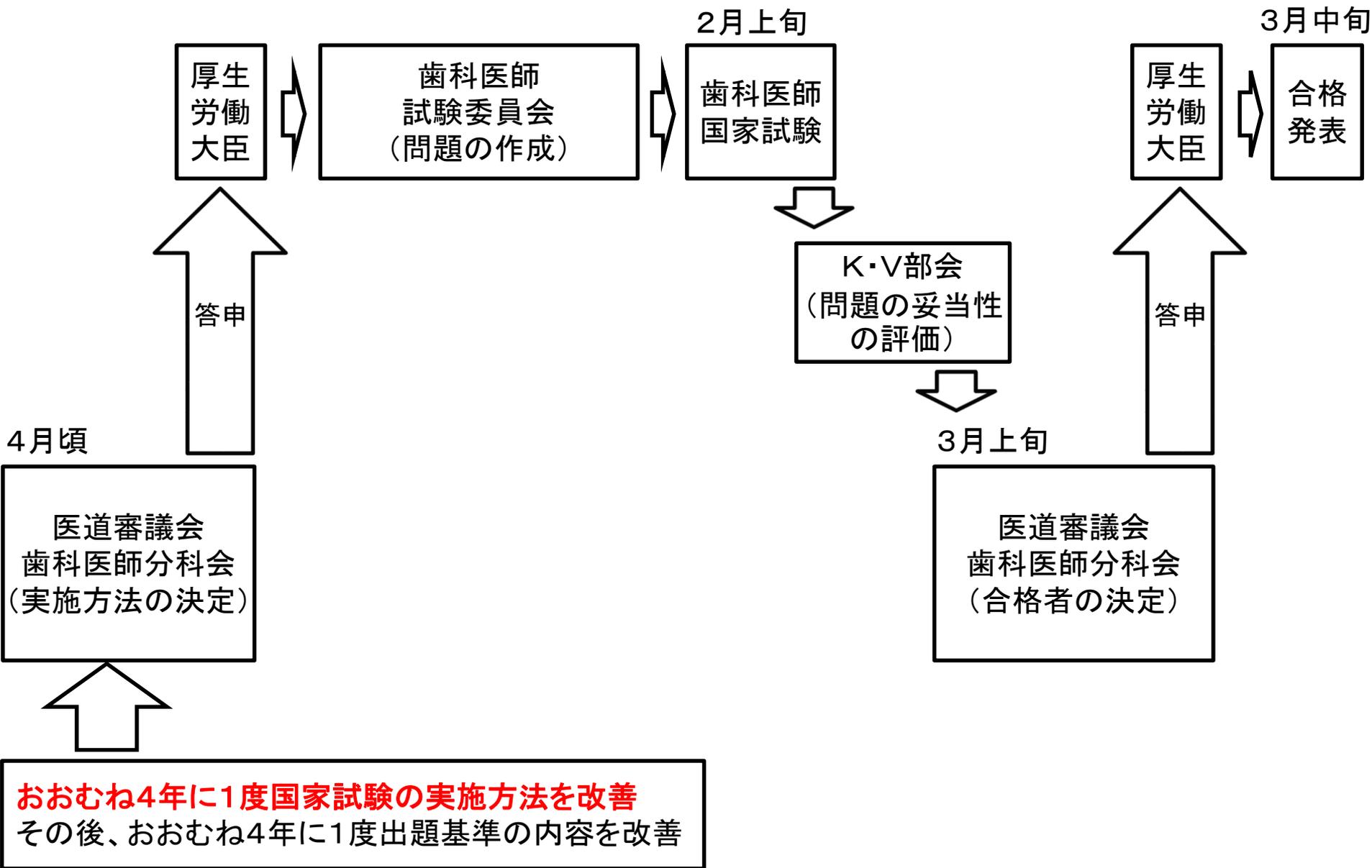
令和2年2月1日、2日 国家試験実施



令和2年3月16日 合格発表

※上記のスケジュールはあくまでも大まかな1年の流れを示したもので、毎年必ずしも同様になるとは限らない。

歯科医師国家試験の実施・見直しに関する大まかな流れ



出題内容

○ 出題内容

ア 試験問題は、临床上必要な歯科医学又は口腔衛生に関し、歯科医師として具有すべき知識及び技能について広く一般的実力を試し得るものとする。この「知識及び技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であるとされている。

イ 具体的な出題範囲は、歯科医師国家試験出題基準（平成30年実施分からは、平成30年版歯科医師国家試験出題基準）に準拠する。

ウ 歯科医師として必ず具有すべき基本的な最低限度の知識及び技能を有する者を識別する目的で、必修問題が出題されている。

出題形式

②出題形式

ア 多肢選択式・マークシート方式であり、出題総数は360題である。

イ 試験問題の内訳は次表のとおり。なお、ブループリント（歯科医師国家試験設計表）において、各項目・評価領域毎の出題割合が示されている。

	必修問題 (1問1点)	一般問題 (1問1点)	臨床実地問題 (1問3点)	合計
必修問題	80問			80問
歯科医学総論		100問		100問
歯科医学各論		80問	100問	180問
合計	80問	180問	100問	360問

合否判定・結果の通知等

○ 合否判定の方法等

①基本的な考え方

必修問題、一般問題及び臨床実地問題の出題区分に応じた得点と領域別基準点という複数の基準から構成されており、必修問題は絶対基準で、一般問題と臨床実地問題は各々平均点と標準偏差を用いた相対基準を用いて評価している。

②合否判定の方法

ア 試験の実施結果を踏まえ、医道審議会歯科医師分科会歯科医師国家試験K・V※部会において問題の妥当性を検討している。（※Key Validation の意）

イ 上記部会の検討結果を踏まえ、医道審議会歯科医師分科会の意見を聴き厚生労働大臣が合格者を決定。

○ 試験結果等の通知・公表

①合否結果等の通知・公表

ア 個人の試験結果（領域別の得点等）は、受験者に郵送で通知している。

イ 合格発表と同時に、受験者数、合格者数及び合格基準を公表し、厚生労働省HPにも掲載している。

②問題及び正答の公表

ア 受験者による試験問題の持ち帰りを認めている。

イ 厚生労働省HPに試験問題及び正答を掲載している。

- A type : 5つの選択肢から1つの正解を選ぶ形式
- X2 type : 5つの選択肢から2つの正解を選ぶ形式
- X3 type : 5つの選択肢から3つの正解を選ぶ形式
- X4 type : 5つの選択肢から4つの正解を選ぶ形式
- XX type : 5つの選択肢から正解数を指定せずに正解を選ぶ形式
- LA type : 6つ以上の選択肢から1つの正解を選ぶ形式
- 計算問題 : 数値を解答させる非選択形式
- 順序問題 : 治療手順等を解答させる非選択形式

問題形式別出題数

第111回	必修問題※	一般問題	臨床実地問題	全 体	計 360問
A type	80	82	60	222	
X2 type	0	71	32	103	
X3 type	0	17	3	20	
X4 type	0	4	0	4	
XX type	0	2	1	3	
LA type	0	1	1	2	
計算問題	0	3	0	3	
順序問題	0	0	3	3	

第112回	必修問題※	一般問題	臨床実地問題	全 体	計 360問
A type	80	83	55	218	
X2 type	0	78	32	110	
X3 type	0	10	8	18	
X4 type	0	1	0	1	
XX type	0	5	0	5	
LA type	0	0	1	1	
計算問題	0	3	0	3	
順序問題	0	0	4	4	

112C009

- 9 骨格性開咬を伴う下顎前突の特徴はどれか。1つ選べ。
- a 下顎角の過小
 - b 咬合平面角の過大
 - c A-B 平面角の過小
 - d 下顎前歯の唇側傾斜
 - e 下顎下縁平面角の過小

112B042

42 Goldenhar 症候群にみられる症状はどれか。2つ選べ。

- a 巨舌
- b 横顔裂
- c 両眼隔離
- d 下顎低形成
- e 頭蓋骨早期癒合

112B073

73 30歳の女性。左側顎角部の腫脹を主訴として来院した。ヨード系造影剤によるショックの既往がある。検査の結果、下顎蜂窩織炎と診断し、抗菌薬の静脈内投与を行ったところ、しばらくして掻痒感を訴えた。その時の上腕の皮膚写真(別冊No. 21)を別に示す。

No. 21 (B 問題 73)

今後予想されるのはどれか。3つ選べ。

- a 喘鳴
- b 意識消失
- c 血圧上昇
- d 体温上昇
- e 動脈血酸素飽和度の低下



112C047

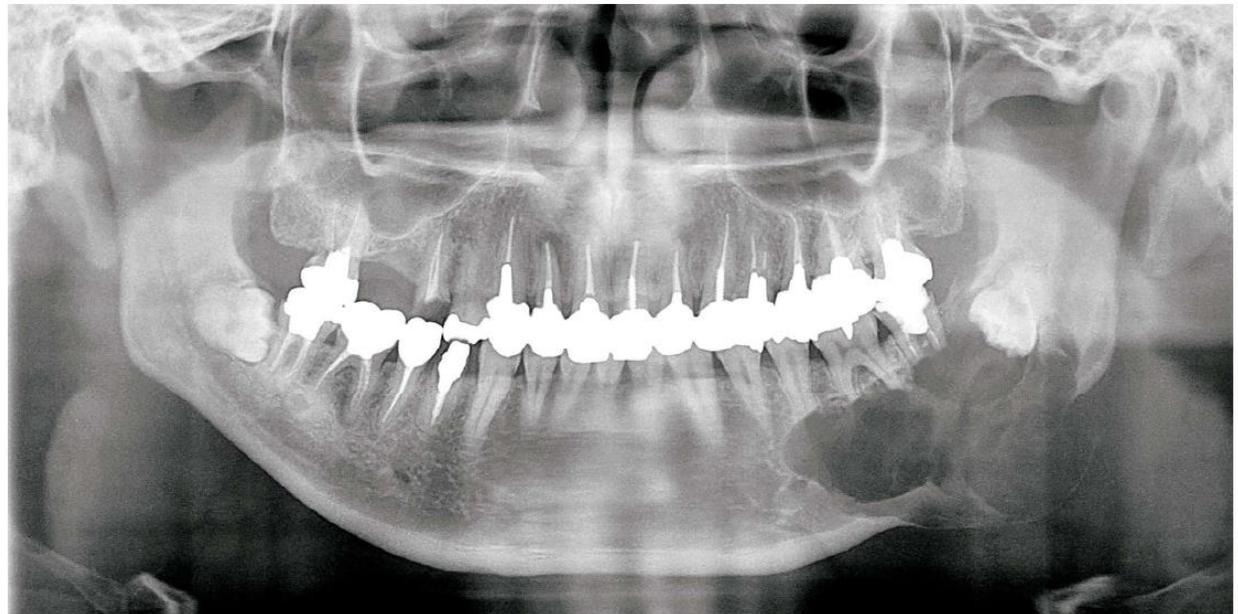
47 62歳の男性。下顎の腫脹を主訴として来院した。3か月前から自覚していたが徐々に増大してきたという。初診時のエックス線画像(別冊No. 3)を別に示す。

認められる所見はどれか。4つ選べ。

- a 歯根吸収
- b 下顎管偏位
- c 弧線状辺縁
- d 皮質骨膨隆
- e 埋伏過剰歯

No. 3

(C 問題47)



112B037

37 光重合型コンポジットレジンに含まれるのはどれか。すべて選べ。

- a 色素
- b 光増感剤
- c フィラー
- d 重合禁止剤
- e マトリックスレジン

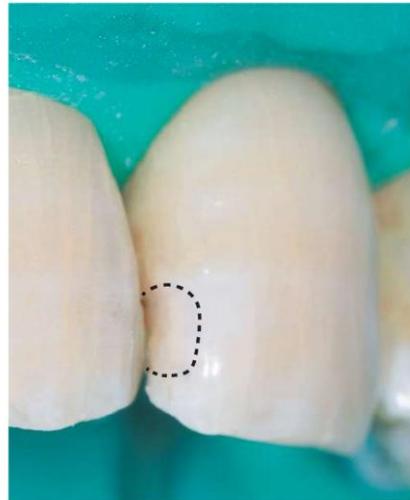
112C069

69 68歳の男性。上顎左側中切歯の一過性の冷水痛を主訴として来院した。3か月前から自覚していたがそのままにしていたという。近心隣接面に齲蝕を認めたため、コンポジットレジン修復を行うこととした。口腔内写真(別冊No. 17A)と切削器具の写真(別冊No. 17B)を別に示す。

点線で示す範囲の歯質を切削する操作と器具の組合せで正しいのはどれか。1つ選べ。

No. 17 (C 問題 69)

A

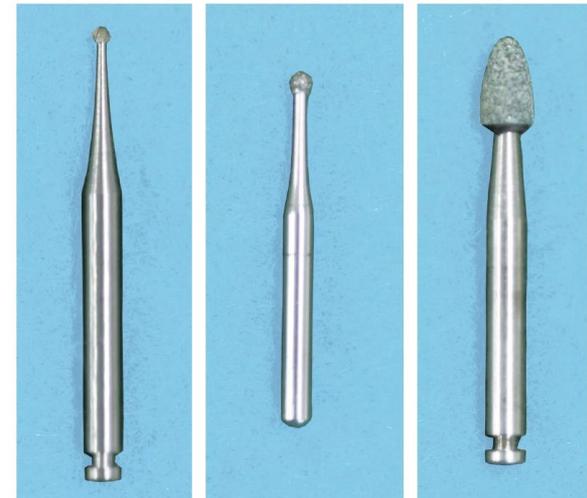


ア

B

イ

ウ



- a 便宜拡大 ————— ア
- b 便宜拡大 ————— イ
- c 便宜拡大 ————— ウ
- d 予防拡大 ————— ア
- e 予防拡大 ————— イ
- f 予防拡大 ————— ウ

112D090

90 8歳の女児。下顎前歯部の歯並びの精査を希望して来院した。下顎永久4切歯の歯冠幅径の総和から下顎永久側方歯群の歯冠幅径の総和を23.6 mmと予測した。

研究用模型(別冊No. 36)を別に示す。

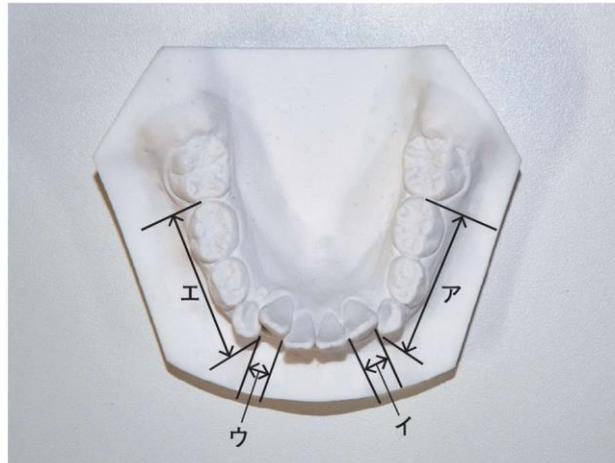
No. 36

(D 問題90)

下顎の萌出余地の予測値を求めよ。

解答：－ ① . ②

- | | |
|---|---|
| ① | ② |
| 0 | 0 |
| 1 | 1 |
| 2 | 2 |
| 3 | 3 |
| 4 | 4 |
| 5 | 5 |
| 6 | 6 |
| 7 | 7 |
| 8 | 8 |
| 9 | 9 |



ア 21.6 mm イ 6.4 mm ウ 5.6 mm エ 23.4 mm
 下顎左側側切歯の歯冠幅径：6.6 mm
 下顎左側中切歯の歯冠幅径：6.0 mm
 下顎右側中切歯の歯冠幅径：6.0 mm
 下顎右側側切歯の歯冠幅径：6.6 mm

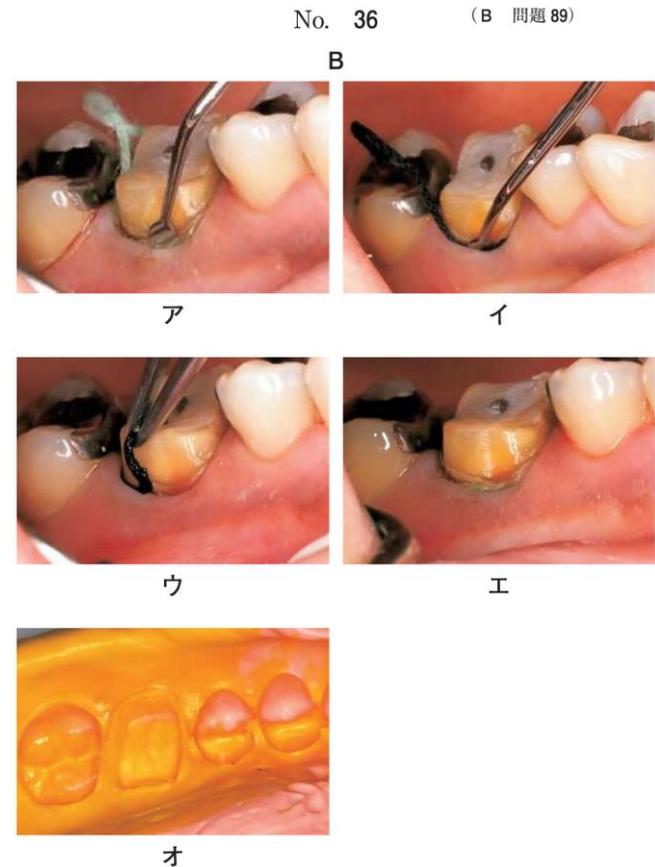
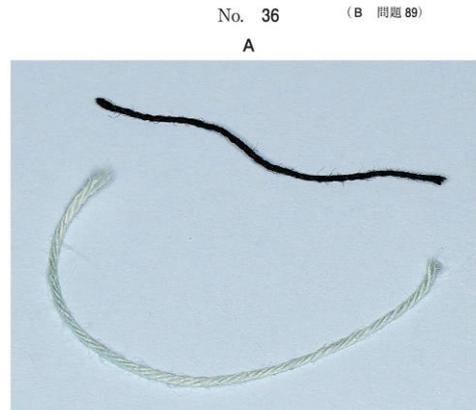
112B089

89 45歳の女性。左側の咀嚼困難を主訴として来院した。診察の結果、上顎左側第一大臼歯を全部金属冠で治療することとした。支台歯形成後、1本目の細いコードを残す二重圧排法で印象採得を行った。歯肉圧排用コードの写真(別冊No. 36 A)と一連の操作過程の写真(別冊No. 36 B)を別に示す。

操作の過程を実施の順番に並べよ。

解答： ① → ② → ③ → ④ → ⑤

- a ア
- b イ
- c ウ
- d エ
- e オ



受験者に通知される成績等通知書の内容

区分	合格基準	得点
① 領域A(総論)	58点以上／98点	〇〇点
② 領域B(各論Ⅰ～Ⅱ)	116点以上／171点	〇〇〇点
③ 領域C(各論Ⅲ～Ⅴ)	126点以上／205点	〇〇〇点
④ 必修問題	64点以上／79点	〇〇点
⑤ 判定	合 格／不 合 格	

歯科医師国家試験の変遷

回数		79～82	83～86	87～90	91～94	95～98	99～102	103～106	107～110	111～	
年		S61～H1	H2～H5	H6～H9	H10～H13	H14～H17	H18～H21	H22～H25	H26～H29	H30～R1	
年間試験実施回数		1回	1回		1回	1回	1回	1回	1回	1回	
筆記試験の実施日数		1.5日	1.5日		2日	2日	2日	2日	2日	2日	
試験内容	試験科目	基礎		(臨床系学科に含まれる)	(総論に含まれる)						
		臨床	学説		7科目(口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生、小児歯科、歯科放射線)	8科目(口腔外科、保存、補綴、矯正、口腔衛生、小児歯科、歯科放射線、歯科医学・医療総論)		歯科医学・歯科保健医療総論、歯科医学・歯科保健医療各論(科目別出題の廃止)		歯科医学総論、歯科医学各論	
			実技(実地)		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地						
	臨床実地		60問	60問	80問	100問	105問		100問		
	必修						30問	50問	70問	80問	
	計	科目		7	8		平成9年に科目別出題が廃止、平成10年以降は領域別出題				
		設問数		260問	280問		280問	330問	365問	365問	360問
	試験方法		解答形式		昭和51年以降は客観的多肢選択形式を採用、105回に計算問題を採用						X3、X4、順序問題を追加
			実技試験(実地)	口腔外科		昭和50年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用					
				保存		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用					
		補綴		昭和57年に廃止、昭和58年以降は臨床実地問題を採用							
		禁忌肢						平成14年より導入		廃止	

平成30年版歯科医師国家試験出題基準(概要)

歯科医師国家試験は、歯科医師法第9条に基づいて、「临床上必要な歯科医学及び口くう衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技能について」行われる。第9条にいう「知識と技能」とは、臨床研修歯科医師として歯科医療に第一歩を踏み出し、指導歯科医の下でその任務を果たすのに必要な基本的知識及び技能であるとする。

その内容を具体的な項目によって示したのが、歯科医師国家試験出題基準(ガイドライン)である。歯科医師国家試験の適切な内容、範囲及びレベルを確保するため、歯科医師試験委員は、この基準を踏まえて出題する。ただし、出題内容に関する最終的な判断は、試験委員会が行うものとする。

ブループリント(歯科医師国家試験設計表)

「必修の基本的事項」(約22%)

1 医の倫理と歯科医師のプロフェッショナリズム	約2%
2 社会と歯科医療	約11%
3 チーム医療	約3%
4 予防と健康管理・増進	約5%
5 人体の正常構造・機能	約16%
6 人体の発生・成長・発達・加齢	約5%
7 主要な疾患と障害の病因・病態	約12%
8 主要な症候	約10%
9 診察の基本	約7%
10 検査・臨床判断の基本	約11%
11 初期救急	約2%
12 治療の基礎・基本手技	約13%
13 一般教養的事項	約3%

「歯科医学総論」(約28%)

総論Ⅰ 保健・医療と健康増進	約21%
総論Ⅱ 正常構造と機能、発生、成長、発達、加齢	約17%
総論Ⅲ 病因、病態	約9%
総論Ⅳ 主要症候	約4%
総論Ⅴ 診察	約7%
総論Ⅵ 検査	約13%
総論Ⅶ 治療	約16%
総論Ⅷ 歯科材料と歯科医療機器	約13%

「歯科医学各論」(約50%)

各論Ⅰ 成長・発育に関連した疾患・病態	約20%
各論Ⅱ 歯・歯髄・歯周組織の疾患	約24%
各論Ⅲ 顎・口腔領域の疾患	約24%
各論Ⅳ 歯質・歯・顎顔面欠損と機能障害	約24%
各論Ⅴ 高齢者等に関連した疾患・病態・予防 ならびに歯科診療	約8%

※ 歯科医学各論において、出題割合の約6%を歯科疾患の予防・管理に関する項目から出題する。

一般問題(必修問題を含む)を1問1点、臨床実地問題を1問3点とし、以下の全てを満たすことが必要。

① 領域A(総論) 58点以上／98点

② 領域B(各論Ⅰ～Ⅱ) 116点以上／171点

③ 領域C(各論Ⅲ～Ⅴ) 126点以上／205点

④ 必修問題 64点以上／79点

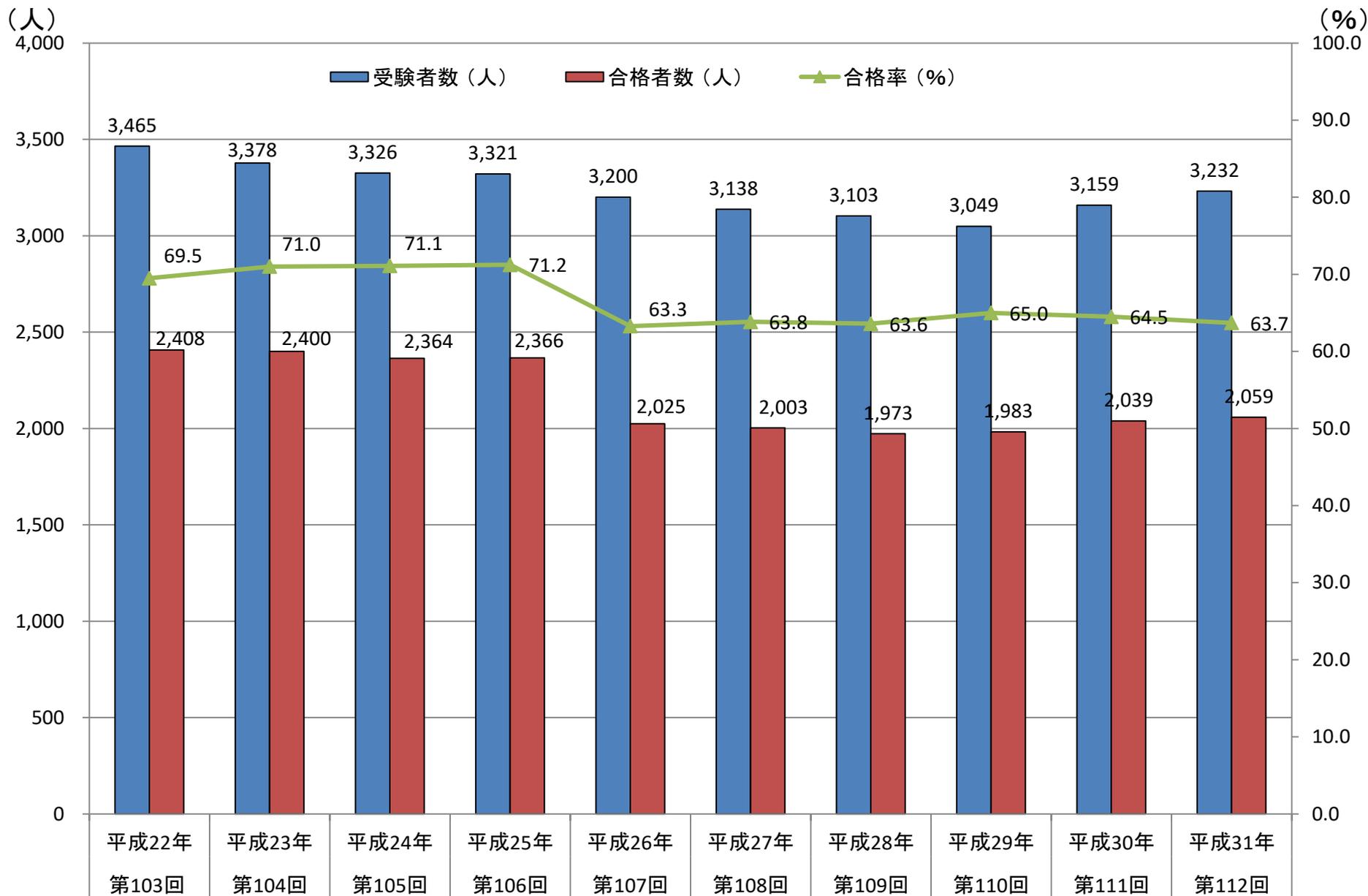
但し、必修問題の一部を採点から除外された受験者にとっては、必修問題の得点について総点数の80%以上とする。

歯科医師国家試験 合格者数等の推移

回数	施行年月日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
第103回	平成22年2月6～7日	3,465 (2,355)	2,408 (1,921)	69.5 (81.6)
第104回	平成23年2月5～6日	3,378 (2,356)	2,400 (1,928)	71.0 (81.8)
第105回	平成24年2月4～5日	3,326 (2,311)	2,364 (1,882)	71.1 (81.4)
第106回	平成25年2月2～3日	3,321 (2,373)	2,366 (1,907)	71.2 (80.4)
第107回	平成26年2月1～2日	3,200 (2,241)	2,025 (1,642)	63.3 (73.3)
第108回	平成27年1月31日～2月1日	3,138 (1,995)	2,003 (1,457)	63.8 (73.0)
第109回	平成28年1月30～31日	3,103 (1,969)	1,973 (1,436)	63.6 (72.9)
第110回	平成29年2月4～5日	3,049 (1,855)	1,983 (1,426)	65.0 (76.9)
第111回	平成30年2月3～4日	3,159 (1,932)	2,039 (1,505)	64.5 (77.9)
第112回	平成31年2月2日～3日	3,232 (2,000)	2,059 (1,587)	63.7 (79.4)

※()内は新卒者を示す

歯科医師国家試験の合格率等の推移



歯科医師国家試験 男女別合格者等の推移

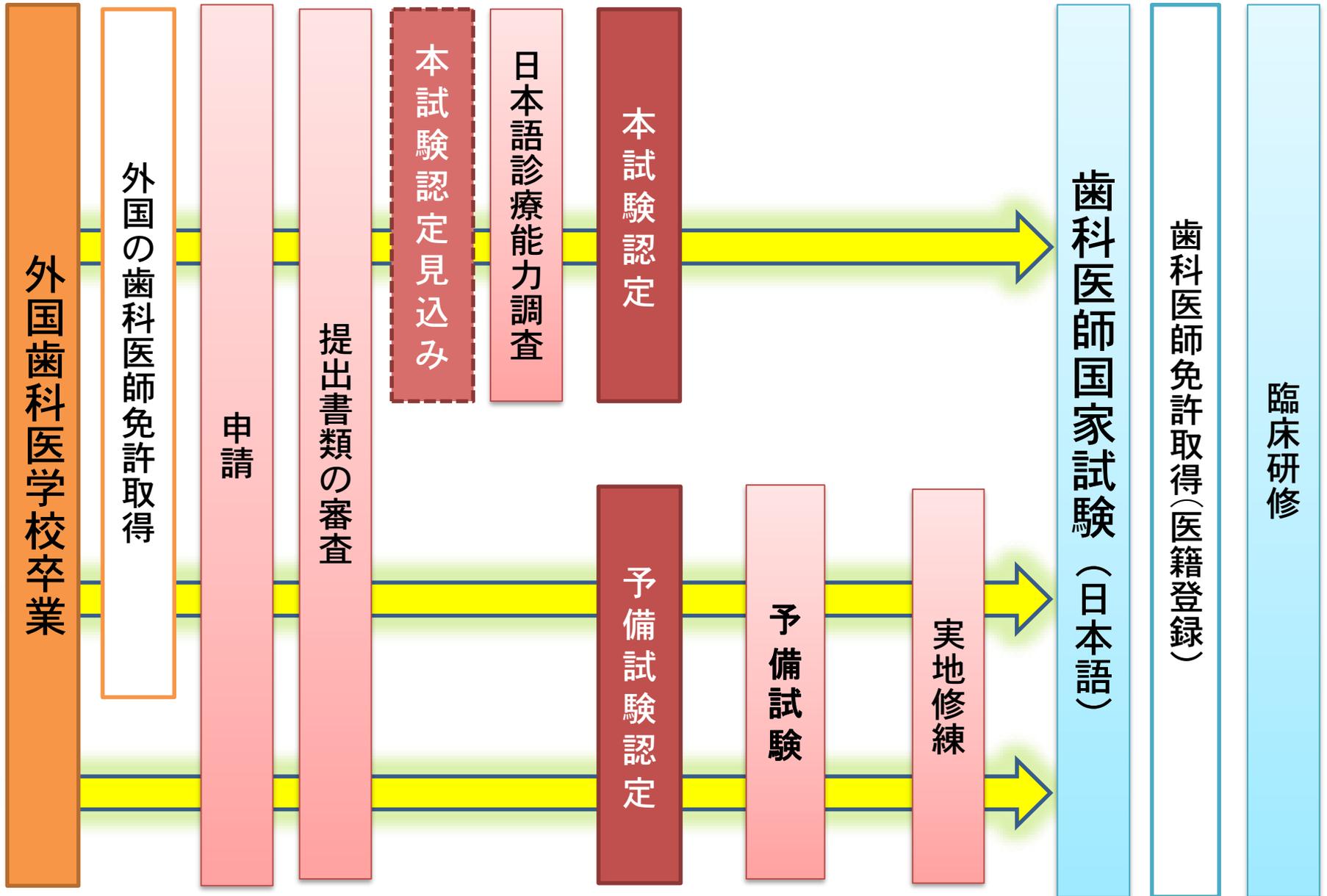
					男女別合格率 (%)	
回数		総数	男性	女性	男性	女性
第108回 (平成27年)	受験者数 (人)	3,138	1,955	1,183	58.9	72.0
	男女比 (%)		(62.3)	(37.7)		
	合格者数 (人)	2,003	1,151	852		
	男女比 (%)		(57.5)	(42.5)		
第109回 (平成28年)	受験者数 (人)	3,103	1,984	1,119	59.6	70.6
	男女比 (%)		(63.9)	(36.1)		
	合格者数 (人)	1,973	1,183	790		
	男女比 (%)		(60.0)	(40.0)		
第110回 (平成29年)	受験者数 (人)	3,049	1,952	1,097	61.7	71.0
	男女比 (%)		(64.0)	(36.0)		
	合格者数 (人)	1,983	1,204	779		
	男女比 (%)		(60.7)	(39.3)		
第111回 (平成30年)	受験者数 (人)	3,159	1,924	1,235	60.4	71.0
	男女比 (%)		(60.9)	(39.1)		
	合格者数 (人)	2,039	1,162	877		
	男女比 (%)		(57.0)	(43.0)		
第112回 (平成31年)	受験者数 (人)	3,232	1,971	1,261	60.0	69.5
	男女比 (%)		(61.0)	(39.0)		
	合格者数 (人)	2,059	1,183	876		
	男女比 (%)		(57.5)	(42.5)		

第112回歯科医師国家試験 卒業年次別受験者数・合格者数・合格率

卒業年次		受験可能回数	受験者数		合格者数 (人)	合格率(%)
			(人)	構成比(%)		
新卒	平成30年4月～ 平成31年3月	1回	2,000	61.9	1,587	79.4
既卒	平成29年4月～ 平成30年3月	2回	573	17.7	310	54.1
	平成28年4月～ 平成29年3月	3回	279	8.6	104	37.3
	平成27年4月～ 平成28年3月	4回	136	4.2	33	24.3
	平成26年4月～ 平成27年3月	5回	54	1.7	13	24.1
	平成25年4月～ 平成26年3月	6回	39	1.2	3	7.7
	平成24年4月～ 平成25年3月	7回	18	0.6	4	22.2
	平成23年4月～ 平成24年3月	8回	15	0.5	2	13.3
	平成22年4月～ 平成23年3月	9回	18	0.6	0	0.0
	平成22年3月以前	10回以上	100	3.1	3	3.0
	計			1,232	38.1	472
総計			3,232	100.0	2,059	63.7

外国歯科医師による日本の歯科医師免許取得の流れ

【**歯科医師国家試験受験資格認定**】



歯科医師国家試験受験資格認定について

		歯科医師国家試験受験資格認定	歯科医師国家試験 予備試験受験資格認定
外国 歯科 医学校 の 修業 年数	歯科医学校の 入学資格	高等学校卒業以上（修業年数12年以上）	
	歯科医学校の教育 年限及び履修時間 (大学院の修士課程、 博士課程等は 算入しない)	6年以上（進学課程；2年以上、専門課程；4年以上）の一貫した専門教育（4500時間以上）を受けていること。ただし、5年であっても、5500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けている場合には、基準を満たすものとする。	5年以上（専門課程；4年以上）であり、専門科目の履修時間が3500時間以上で、かつ一貫した専門教育を受けていること。
	歯科医学校卒業までの修業年限	18年以上 (教育年限が5年以上の場合は17年以上)	17年以上
歯科医学校卒業からの年数		10年以内（但し、歯科医学教育又は歯科医業に従事している期間は除く）	
教育環境		大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学とほぼ等しいと認められること	大学付属病院の状況、教員数等が日本の大学より劣っているものでないこと
歯科医学校卒業後、当該国の 歯科医師免許取得の有無		取得していること	取得していなくてもよい
日本語能力		日本の中学校及び高等学校を卒業していない者については、日本語能力試験N1（平成21年12月までの認定区分である日本語能力試験1級を含む。以下同じ。）の認定を受けていること	

歯科医師国家試験の合格者は直ちに日本において歯科医業を行うことができることから、外国で歯科医師免許を得た者が、歯科医師国家試験受験資格の認定を受けようとする場合、現実の診療の場で、患者あるいは他の診療スタッフとの間で、正確で適切な日本語による意志疎通が可能であるかどうか判定する必要がある。

歯科医師国家試験は臨床上必要な歯科医学及び口腔衛生について歯科医師として必要な知識及び技能を問うこととしているので、本調査では、実際に則した臨床場面を設定し、患者の訴えや現症などの歯科医療情報の収集、カルテの作成、症例に関する討論等の診療行為を日本語で行う上で必要な聴く能力、話す能力、書く能力、読み取る能力、診察する能力について、日本の歯科医学校において歯科医学の課程を修めた者と同等の能力を有するか否かを判定することを目的とする。

○ 試験科目

(1) 学説試験第一部試験

解剖学(組織学を含む。)、生理学、生化学(免疫学を含む。)、薬理学、病理学、微生物学および衛生学

(2) 学説試験第二部試験

口腔外科学、保存学、補綴学、矯正学および小児歯科学

(3) 実地試験

口腔外科学、保存学、補綴学および矯正学

○ 試験内容

(1) 学説試験

各科目につき、多肢選択式問題と用語の組合せや穴埋め等の問題となっている。

(2) 実地試験

人工歯を用いた根管孔明示や総義歯の人工歯排列、エックス線写真・口腔内写真や歯列模型等を用いた診断や治療方針等を問う問題となっている。

これまでの歯科医師国家試験制度改善の概要(出題数・出題内容・合格基準)

制度改善の項目		平成19年12月 (平成22年(第103回))	平成24年4月 (平成26年(第107回))	平成28年 (平成30年(第111回))
出題数 (必修問題)		365題を維持 (50題→総数の2割程度)	現行通り365題 (70題)	360題(臨床実地問題:105題→100題) (80題に増加)
出題内容 (全体)		口腔と全身との関わりや高齢者・全身疾患を有する者等への対応、歯科疾患の予防管理等についての内容を充実。社会保障制度等についても出題範囲に含める。出題基準の項目の包括化する。グループプリントをより詳細にする。基礎領域については臨床との関連性を踏まえた内容にする。	高齢者等への対応に関する出題、歯科疾患の予防管理に関する出題、社会保障制度に関する出題、口腔と全身疾患との関係に関する出題、救急災害時の歯科保健対策・法歯学に関する出題を充実。	社会情勢の変化に合わせて、次の項目を充実。 ・高齢化等による疾病構造の変化に伴う歯科治療の変化に関する内容 ・地域包括ケアシステムの推進や多職種連携等に関する内容 ・口腔機能の維持向上や摂食機能障害への歯科治療に関する内容 ・医療安全やショック時の対応、職業倫理等に関する内容
合格基準	必修問題	現行の基準を基本とし、絶対基準で評価すべき	絶対基準での評価を継続	絶対基準での評価を継続
	一般問題 臨床実地問題	新卒受験者の知識・臨床能力等の水準を基本としつつ、新卒受験者間でも知識・臨床能力に差があることに留意する。臨床実地問題はより配点に重みを置く。	受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識・技能を有している者を適切に評価すべき。	受験者の質の変動に左右されず、歯科医師として具有すべき知識及び技能を有している者を適切に評価するために採用している現在の方法を継続。
	禁忌肢問題	継続して採用 偶発的な要因で不合格とならないよう配慮	従来通り運用 偶発的な要因で不合格とならないよう配慮	禁忌肢を含む問題は出題しない。患者に対して重大な障害を与える治療や手技、ショック時等の緊急時における誤った対応、法律に抵触する行為、職業倫理に反する行為等に関する内容は今後も内容を充実させた上で、引き続き出題。
	必要最低点		歯科医師国家試験の領域を構成するグループ別に必ず得点しなければならない最低点を設定すべき	他の合格基準で歯科医師として必要な知識及び技能については確保されており、今後は運用しない。